

## 野良になる

会期：2024 年 4 月 13 日（土）－11 月 17 日（日） **十和田市現代美術館**



### AOMORI GOKAN アートフェス 2024

国内外の若手作家 4 人による、多様な視点から自然を捉えた作品を紹介

十和田市現代美術館では、AOMORI GOKAN アートフェス 2024 の企画として、フェスのテーマ「つらなりのはらっぱ」を自然と人間の交わる場所と捉え、その複雑に絡まる関係性に注目した展覧会「野良になる」[会期：4 月 13 日(土)－11 月 17 日(日)]を開催します。

#### 【企画展について】

近年、世界規模で気候変動への危機感が高まり、人間の自然に対する関係を再考することが求められています。しかし現在私たちが知るこうした「人間」のあり方そのものが、自然を管理すべき他者として収奪してきたものであるならば、そのおなじ「人間」が自然を「救う」ことができるのでしょうか。本展では近代が生み出した自律した理性的な主体としての「人間」を見直し、その成立過程で排除された存在や思考に目を向けます。私たちの思考を規定するさまざまな二項対立的な枠組みの境界を攪乱しつつ強かに——野生でも飼われるのでもなく野良のように——息づくあり方、物語に出会うことになるでしょう。日本とアメリカにルーツを持ち、トランスジェンダー女性として生きるあり方を彫刻で表現する**丹羽海子**、10 歳の頃に学校教育を離れ、研ぎ澄まされた独学の感性で風景を描く**荻原蓉子**、品種改良や養殖といった人間のコントロールと動植物の生が交錯する関係を取り上げ、映像や料理の作品を作る**永田康祐**、ブラジルに植民地時代以前から伝わる知識をもとに、植物と人間の関係性を問い直す作品を制作する**アナイス・カレニン**など、多様な視点から自然を捉えるアーティストの表現を紹介します。国内外の若手作家の新作を中心に、彫刻、映像、ウールのタペストリー、サウンド、インスタレーション、食など、多岐にわたる表現形式で現代アートを楽しめる展覧会です。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 [press@towadaartcenter.com](mailto:press@towadaartcenter.com) [www.towadaartcenter.com](http://www.towadaartcenter.com)

## 【 出展作家 】

## 丹羽海子（にわ・うみこ）



©Umico Niwa, 2022, Photography: Colin Conces

1991年愛知県生まれ、アメリカを拠点に活動。西洋的な主体概念を否定し、身体やジェンダーに拘束されないオルタナティブな主体のあり方を彫刻を通して探究している。萎れた花や、熟したフルーツといった有機的な素材を用いて、儚く移ろいやすい存在を表現する。主な個展に「靴の中の暮らし(幻影コオロギ)」(Fig., 東京、2023)、「The Quantified Elf (and how it came to love itself)」(Someday Gallery, ニューヨーク、アメリカ、2022)、グループ展に「The Invention of Nature」(Nino Mier Gallery, ロサンゼルス、アメリカ、2023)、「もうすぐ春ですね」(XYZ Collective, 東京、2022) など。

参考図版 丹羽海子《Baby Shoe Series: My Daughter Beluga》2023年  
Courtesy the artist, xyz collective, and Someday, New York参考図版 丹羽海子《Metropolis Series: Good Egg Community》2022年  
Courtesy the artist and Someday, New York  
撮影: Daniel Terna

## 基原蓉子（だいはら・ようこ）



©Yoko Daihara, courtesy of Take Ninagawa, Tokyo.

1989年千葉県生まれ、東京都を拠点に活動。デジタルとアナログの重なりに関心を持ち、iPad上で構成したイメージを、ウールを用いたテキスタイルへと変換して制作している。日常で出会う植物や風景など様々なモチーフを紡ぎ合わせ、カラフルで空想的な心象風景を描く。主な個展に「project N 88 基原蓉子」(東京オペラシティ アートギャラリー、2022)、「食べてください食べないでください」(Take Ninagawa, 東京、2022) など。美術家の冨樫達彦、渡邊庸平とともにアーティストトランススペース兼食堂である Lavender Opener Chair/灯明を運営。

参考図版 基原蓉子《それじゃわからない》2022年  
©Yoko Daihara, courtesy of Take Ninagawa, Tokyo.  
撮影: 岡野圭参考図版 基原蓉子《ネジ》2022年  
© Yoko Daihara, courtesy of Take Ninagawa, Tokyo.  
撮影: 岡野圭

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報: 大谷 (おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com



## 永田康祐（ながた・こうすけ）



1990年愛知県生まれ、神奈川県を拠点に活動。自己と他者、自然と文化、身体と環境といった近代的な思考を支える二項対立、またそこに潜む曖昧さに関心を持ち、写真や映像、インスタレーションなどを制作している。近年は、食文化におけるナショナル・アイデンティティの形成や、食事作法における身体技法や権力関係、食料生産における動植物の生の管理といった問題についてビデオエッセイやコース料理形式のパフォーマンスを発表している。主な個展に「イート」(gallery αM、東京、2020)、グループ展に「見るは触れる 日本の新進作家 vol. 19」(東京都写真美術館、2022)、あいちトリエンナーレ (愛知県美術館、2019)など。



参考図版 永田康祐 《Purée》 2020 年



参考図版 永田康祐 《Feasting Wild》 2022 年  
撮影：奥祐司

## アナイス・カレニン



撮影：加藤南

1993年ブラジル、サンパウロ生まれ、近年は日本を拠点に活動。ブラジルに植民地時代以前から伝わる、薬効を持つ植物に関する知識体系を研究し、植物との親密な関わりを通して植物と人間との関係性を問い直している。アニミズムや神話、植民地主義の歴史、言語、科学などさまざまな分野を横断してリサーチやフィールドワークを行い、香りやサウンドといった五感に訴える包括的な表現方法で、植物を新たな姿で捉える作品を制作している。主な個展に「Things named [things]」(The 5th Floor、東京、2023)、「Mediate Plants」(工房 親、東京、2023)など。サン・パウロ大学博士研究員、早稲田大学客員研究員及びティーチングアシスタント。



参考図版 アナイス・カレニン 《植物 祖先》 2023 年  
撮影：竹久直樹



参考図版 アナイス・カレニン 《名無き遷移》 2023 年  
撮影：竹久直樹

### お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

## 【 開催概要 】

展覧会名： 野良になる  
会期： 2024 年 4 月 13 日（土）－11 月 17 日（日）  
開館時間： 9：00－17：00（入場は閉館の 30 分前まで）  
休館日： 月曜日（祝日の場合はその翌日）  
会場： 十和田市現代美術館  
観覧料： 一般 1800 円（常設展含む）、高校生以下無料  
主催： 十和田市現代美術館  
後援： 青森朝日放送、青森テレビ、青森放送、エフエム青森、デーリー東北新聞社、東奥日報社、十和田市教育委員会  
企画： 外山有茉

## AOMORI GOKAN アートフェス 2024

共通会期：2024 年 4 月 13 日（土）－9 月 1 日（日）

青森県内にある現代美術を楽しめる 5 つの美術館・アートセンター（青森県立美術館、青森公立大学国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館）では、2020 年から 5 館が連携し、県民や観光客が青森のアート体験と共に、地域の周遊を喚起する「5 館が五感を刺激する－AOMORI GOKAN」プロジェクトを発信してきました。この 5 館を中心に「AOMORI GOKAN アートフェス」を初開催します。2024 年度のテーマは「つらなりのはらっぱ」に決定。この地に根差して活動する各館のキュレーターが協働し、展覧会やプロジェクト、パフォーマンスなど、それぞれの館の特徴を活かした多様なプログラムを企画します。一過性のイベントに終わらない、新しい形のアートフェスです。またアートを起点に県内各地域にある自然や食、建築など豊かな文化に触れることを通じて、青森の魅力を発見する機会となります。

web：<https://aomori-artsfest.com>

## 十和田市現代美術館

2008 年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、塩田千春、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティストらの作品を常設展示しています。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、子どもから大人まで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができます。

所在地：青森県十和田市西二番町 10-9

TEL：0176-20-1127 FAX：0176-20-1138 web：[www.towadaartcenter.com](http://www.towadaartcenter.com)



## お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 [press@towadaartcenter.com](mailto:press@towadaartcenter.com) [www.towadaartcenter.com](http://www.towadaartcenter.com)

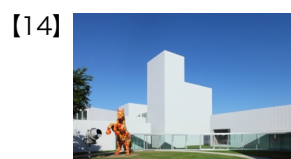
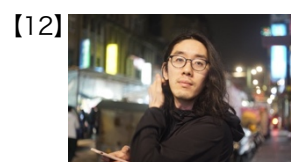
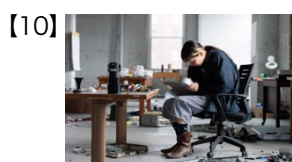
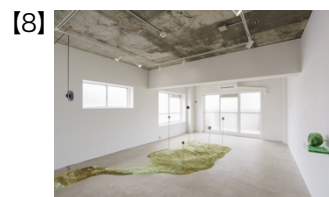
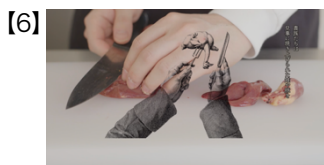
## 【 広報用図版 】

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙を FAX または E-mail にてお送りください。

FAX : 0176-20-1138 / E-mail : [press@towadaartcenter.com](mailto:press@towadaartcenter.com)

TEL : 0176-20-1127 / 住所 : 034-0082 青森県十和田市西二番町 10-9

十和田市現代美術館 広報 大谷 行



媒体名

媒体ジャンル 新聞/雑誌/美術誌/テレビ/WEB/その他 ( )

御社名

御担当者名

所在地 〒

電話

メールアドレス

## 【 画像ご使用に際して 】

- クレジットは全て明記してください。
- トリミングはご遠慮ください。
- キャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにご配慮ください。
- ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館までご確認ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 [press@towadaartcenter.com](mailto:press@towadaartcenter.com) [www.towadaartcenter.com](http://www.towadaartcenter.com)